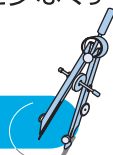


浸水想定区域図の作成



浸水想定区域図作成の目的

近年日本各地で河川の洪水が相次ぎ、迅速かつ適切な避難誘導の重要性が再認識されています。また、想定外の大きな洪水が起こったとき、ハード事業ではどうしても限界があります。そこで、洪水時の被害を最小化するため、ハード事業と併せソフト事業を推進しています。浸水想定区域図作成もソフト事業の一つで、浸水する恐れのある区域や浸水の深さを事前に公表することにより、想定外の大きな洪水が起こったときの対策を行政、住民等皆が日常から意識し、少しでも被害を少なくするのが目的です。



浸水想定区域図はこうにして作成しました。

河川改修を計画する上で用いている異常な大雨（概ね百年に1回発生すると予想される大雨）が発生し堤防が決壊して河川が氾濫した場合に、浸水が見込まれる区域とその水深を計算により求め、図面に表示したものです。

■ 氾濫の恐れのある地点は？

浸水想定区域図を作成するためには、まず、堤防の決壊により氾濫の恐れがある地点（破堤箇所）を把握する必要があります。

堤防を調査した結果から、「①完成堤防」と「②未完成堤防」の2つに分類し、それぞれ氾濫が開始する水位を以下のように設定した上で、想定している大雨による洪水の水位が氾濫の開始する水位を超える地点を計算で求め、氾濫の恐れがある地点としています。

1 完成堤防

「河川整備の目標としている堤防の高さと厚みを有している堤防」

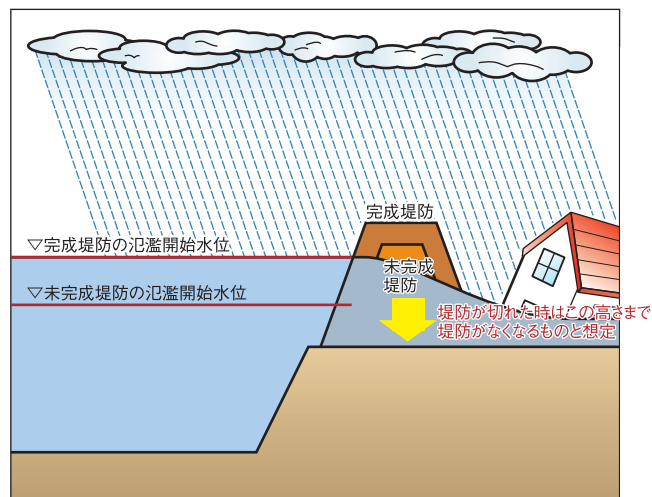
完成堤防では、計画の目標とする水位（計画高水位と言います）を氾濫が開始する水位とします。原則として、完成堤防では氾濫が開始する水位を超えた水位となることはありません。

2 未完成堤防

「堤防の高さや厚みが不十分な堤防」

未完成堤防では、堤防が脆弱なため、十分な強度を有すると判断できる厚みを持った高さまで氾濫が開始する水位を低く設定します。このため、現在の堤防の高さと比較して低い水位で破堤する計算となっており、破堤の危険度を大きく算定しています。

図-1 氾濫開始水位概念図



■ 浸水する区域と浸水深の設定は？

浸水想定区域図は想定した全ての破堤箇所からの氾濫の広がりや個々の計算により求め、算出されたそれぞれの浸水状況を全て重ね合わせて、最も広い浸水範囲と最も深い浸水深となる状況を表します。

実際の洪水では、想定した全ての破堤箇所から一斉に氾濫し、このように浸水が広がることはありませんが、破堤する箇所によっては浸水が想定されることを示しています。

なお、未着色の部分でも、想定した以上の大雨や内水氾濫により浸水する可能性があります。

図-2 浸水想定区域の設定方法

